

富士河口湖町 教育センターだより

平成23年5月13日

No.2

● 小学生・中学生のみんなへ

今年は春が遅いように感じましたが、忘れずしっかりとやってきました。散り際の桜、葉桜の中に残った数厘の桜、どの瞬間を捕らえても風情があります。どんなことがあろうと、毎年に行いをきちんとする自然界のすべてには感嘆します。人もその自然界の一つですが、地道にコツコツと生きていくことに関しては、他のものにはかないません。平常の暮らし、今私達が忘れていたものの一つです。平凡な毎日がいかに大切であるか、東北の人たちに教えられました。中学生になると、平凡であること・普通であること・真面目であることに、不快感を覚えてきます。これは、成長過程の一つともいえますが、否定して、反対の方向に走る前に、その意味の大きさを考えて欲しいと思います。一瞬にして、普通の生活を奪われた同年代の人がいるのです。悲しみを隠して笑顔で生活している同年代の人がいるのです。私達は、自分が恵まれていることを、認め愛しなければなりません。

● お父さん・お母さんへ

「子どもの日」ではなくて、「こどもの日」5日、テレビを見ていたら、尾木ママ（知っていますか？）が、大人に対する「子」付属の「供」じゃあないんです。「こ」には一人の人格として尊重する願いがこめられている。親子関係をよくするヒケツは・・・こどももひとつの人格として認める、尊重すること。パートナーシップで生きて行くということ。親子関係もむずかしいですね。・・・こんな話をしていました。もう20年以上も前になるでしょうか。写真家(故)星野道夫氏が旅先で我が子の誕生を知った時、喜びとともに、こどもは私達のものではない。個性ある一人の人格として育てていこう・・・というようなことを奥さんに伝えている記事を読みました。その言葉に感動し私もそうありたいと思いました。反省ばかりの毎日ですが、反省の次には、また新しいスタートがあります。子育て中のお父さん・お母さん、毎日が新しいスタートです。

● 教育センターのスタートは…

淡々と毎日の業務を行っています。12日(木)には、教育センターを学校側からサポートしてくださる先生方(各校1名)「研究員委嘱交付式及び委員会」がありました。また、相談員の先生方は役場の福祉推進課との話し合いや学校との話し合いもあり、様々な部署との連携を行っています。何か気になることがあるときは、一人で考え込まないで、役場なり教育センターなり、気軽に声をかけてください。みんな、町民のお役に立てることを願っています。

